

# 第1回防災未来づくり会議

## 開催概要

- 日時: 令和7年8月29日(金) 18:00~20:00
- 会場: 穴水町役場3階大ホール
- 全体テーマ: 穴水町のこれからの防災を考える
- 内容: 役場職員14名と町民27名が5つのグループに分かれて、穴水町地域防災計画改定のため令和6年能登半島地震での教訓・課題をワークショップ形式で話あってもらいました。発災時の記憶を振り返りながら、穴水町の未来の防災について意見交換を行いました。



# A班：個別テーマ「地震発生時の避難」



## 【災害情報】

- ・携帯電話が不通で災害情報を得られず困った。
- ・地震や津波の情報がよくわからなかった。

## 【事前対策】

- ・持ち出し品の事前準備の重要性、日頃の防災訓練・炊き出し訓練の重要性を感じた。
- ・自宅では3日目以降、食料がなくなった。

## 【寒さ対策】

- ・ストーブ、毛布といった冬期の寒さ対策が必要。
- ・白山神社境内は寒さが厳しかった。

## 【避難場所、避難方法】

- ・各家に声かけを行い確認を行った。
- ・避難行動要支援者の避難が遅れた。
- ・火災発生がなかったのはよかったが、防火水槽がない道路下は危険と感じた。
- ・一時避難所はいっぱいであった。
- ・電気の復旧が遅かった。

## 【道路寸断、渋滞】

- ・家屋倒壊や土砂崩れ、道路被災で避難所への道が塞がれていた。



# B班：個別テーマ「地震発生時の避難」



## 【地域のつながり】

- ・各家に声かけや支援物資の配布をし、励ましあって乗り越えられた。
- ・男性と女性とで役割分担を明確にした。

## 【情報】

- ・携帯電話が不通で災害情報を得られず困った。
- ・学校で作った手回し発電機付きのラジオが役立った。

## 【トイレ】

- ・トイレ問題はかなり重要であった。

## 【寒さ対策】

- ・石油ストーブや毛布で暖を取ってどうにか過ごせた。

## 【灯り】

- ・明るい時間帯で車避難ができたが、暗い時間帯なら避難は難しかったかもしれない。

## 【事前対策】

- ・家具が倒れてすぐに自宅から出ることができなかった。
- ・普段からハザードマップの確認や避難訓練をしていたので、すぐに避難できた。
- ・割れた食器が床に散乱して困ったので、自室前に靴を置くようにした。



# C班：個別テーマ「避難所での生活」



## 【物資】

- ・避難所によって、炊き出しや物資配布方法など違いがあった。

## 【避難所運営】

- ・発災当初、想定以上の避難者が来て横になれなかった。
- ・間仕切りがないなか、知らない人が周りにたくさんいて怖い感じがした。
- ・役割づくりが難しかった。

## 【福祉・医療】

- ・避難所に保健師がいなくて、嘱託医に往診を頼んだ。
- ・感染症が発生し、隔離のゾーニングに苦勞した。
- ・福祉避難所を開設できなかった。

## 【安心・安全】

- ・防犯対策が必要と感じた。
- ・女性の被災者に対して男性の警察官が対応されて話しにくかった。

## 【環境】

- ・水が出なく洗濯に困った。
- ・自衛隊のお風呂開設後、衛生面が改善されてよかった。
- ・エアベッドの使用で休むことができた。
- ・トイレの清潔を保つことが大変だった。

## D班：個別テーマ「避難所での生活」



### 【物資】

- ・段ボールベッドはすべての避難所に配備してほしかった。
- ・物資の確保が大変だった。
- ・一時心肺停止の状態が発生したので、AEDが必要と感じた。

### 【生活】

- ・ほかの避難者と生活リズムが合わず苦労した。
- ・感染症対策が大変だった。
- ・情報の不足で状況が分からず不安だった。
- ・ペットと一緒に避難所に入りたかった。
- ・寒さ対策同様、夏場での避難所生活を想定した対策が必要。
- ・役割分担ができた避難所とうまくできなかった避難所があった。

### 【食事】

- ・毎月の老人会などでの食事作りをしていたので、おにぎりの炊き出しをできた。
- ・遅れていくと食事がもらえないことがあった。

### 【避難所】

- ・集会所の雨漏りに苦労したので、修理を早くしてほしい。
- ・自主防災組織が原動力になるので、もっと増やすべきと思った。
- ・自主防災組織の活動補助金の周知をもっとしてほしい。



# E班：個別テーマ「防災意識の向上」



## 【まさかびっくり】

- ・ここまで大きい地震は起きないと思っていた。
- ・地震発生時は何が起きたか分からず動けなかった。
- ・地震発生の初動を日ごろから考える必要があると思った。

## 【備蓄】

- ・防災倉庫が空だった。
- ・備蓄をしていたが、家屋に入れなかった。
- ・家庭内備蓄をしていなかった。

## 【あってよかった】

- ・井戸水や灯油ストックなど農村の強みが生きた
- ・近所の人と合流して、地域みんなでの集団避難ができた。
- ・井戸水や雨水をトイレ用水に利用できた。

## 【安否確認】

- ・外出時の連絡がつかず、安否確認の方法が必要と改めて感じられた。

## 【避難所、防災士】

- ・自助と共助の重要性を感じた。
- ・防災士の知識をうまくいかせなかった。
- ・簡易トイレの使い方が分からなかった。

